二夕十日刊
磐城時報
福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷人　福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
發行所　福島縣石城郡平町紺屋町十五　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五拾錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

無競爭の選擧を 民政黨に交渉
縣議補欠選擧について 石城政友會幹部會

石城郡政友倶樂部では十九日午後一時から平町大村屋旅館で幹部會を開き木村部會長、井上幹事長、金成貴族院議員、佐藤代議士その他三十余名出席、縣會議員補欠選擧對策について協議の結果、政友派議員の補欠選擧であるため民政黨に對し無競爭で政友派の議員を選出するやう木村部會、長井上幹事長から交渉する事になつた。

井上幹事長が 會見して交渉

縣議補欠選擧に對する石城政友倶樂部幹部會の結果は別項の如くであるが、井上幹事長は民政黨に交渉するため萩原、野崎兩縣會議員に會見を申し込んだ。

鮪罐詰 米國に輸出

小名濱町磐城水産工業株式會社では本年から鮪罐詰の製造を初めたが、七月までに四打入五千箱、價格六万五千圓を製造殆んど全部米國に輸出した。

郡山方面 海水浴團体

郡山驛主催の海水浴團体五百余名は二十三日（日曜日）午前九時三十八分四倉驛着臨時列車で到着、午前中は海水浴をなし、午後は大浦村新舞子で地敷網の催ほしあり、百名は四倉町に一泊四百名は即日歸郷の筈である。

生鰯のまゝで 粉末にする機械
總工費六万圓で 磐城水産工業に据付

小名濱町磐城水産工業株式會社では生鰯をそのまゝ粉末とするミーキン魚粉末機を据付ける事となり農林省に補助申請中であつたが、總費用六萬圓のうち二萬五千圓の補助指令に接したので大阪市安治川鐵工場の手により八月中に据付け工事を完成する段取りとなつた。この機械は東北に於ては最初のもので關西方面に於ても九州に一箇所あるのみで石城海岸は鰯の豊漁場である關係で同事業は極めて有望として期待されてゐる、製造した粉末は主としてイワシ粕に代る肥料として使用するものでイワシ粕に比べ肥料成分に富んでゐる。同機で製造した粉末の肥料としての特色左の如し。

一、如何なる作物にも好適す
二、肥料主成分の含有率適正なり、三、有効主成分豊富なり、四、肥効迅速なり、五、貯藏永きに耐へ虫害變質の虞なし、六、乾燥完全なれば目減りせず、七、粉碎費用を節約す、八、使用簡便なり、九、土地生産力改良の効果偉大なり、一〇、價格低廉なり、一一、微細なる粉末狀態なれば樹目多く施肥に便なり。

多數軍人を出した 光榮の三家族
けふ役場で傳達式

一家から六名の軍人を出した名譽の家、平町二丁目田巻造酒之助氏は銀杯、四名の一町目武田友吉、長橋町松本嘉七兩氏は木杯を賞勳局から授與されたので二十日午前十時平町役場で傳達式を行つた。

草野、浪江間 助役會議

仙臺運輸事務所では十九日午後一時より四倉町柏屋旅館に於て管内草野驛、浪江驛間の各驛助役會を開催し仙鐵事務所よりは福中運輸事務所長、宮下運轉掛主任、新藤庶務主任等出席業務打合せ、事故防止、旅客貨物の取扱上の注意等につき打合せ一泊の上二十日散會した。

▲第三校委員會

平第三小學校建設委員會は二十日午後一時から同校に開き材料檢査その他を協議した。

▲平戸籍會

平區裁判所管内戸籍會は二十一日から二日間小名濱小學校に開く。

▲磐城丸出帆

小名濱水産試驗場磐城丸は二十日朝宮城縣女川港を出帆漁場の調査に向つたが、現在の漁場は福島縣沖四百浬附近である。

水産講習所生 鰹漁の實習
けふから小名濱を中心として

東京水産講習所漁撈科三年生三十一名は二十日午後一時青暢丸で小名濱港に入港直ちに磐城水産工業會社を視察したが、十五日間に亘り小名濱を中心として鰹漁の實習を行ふ筈である。

四倉海水浴場 宣傳ポスタ

四倉青年團にては此程幹事會を開き夏季海水浴に關する協議をなしたが、夏季期間中四倉驛を中心に百五十驛及各集合場所にポスターを掲げる事になつた。

平郵便局 貯金成績

平郵便局では十日現在で縣下主要都市の郵便貯金狀態を調査したが、その結果は

福島四七五七〇萬圓、郡山三七二九〇圓、若松四五三九〇圓、平三一三九〇圓

で總金額は平局が最も少ないが一人當の貯金高は平が最高で百五十九圓、次は福島の百六圓若松八十七圓、最低は郡山で五十二圓、平の三分の一に過ぎない

工費十万圓で 小名濱に運河
小野町長の計畫 二十一日町會に諮る

總工費三百五萬圓、本縣唯一の大商港となる小名濱築港工事は著るしく進捗し本年度に於て全長五百四十五米の防波堤中百六十二米出來する外、海岸埋立地の護岸工事に愈々着工することになつたので地元小名濱町では大商港完成に伴ふ諸施設計劃に追はれ

船舶給水に供する上水道の急設、物資輸送上小名濱、平間鐵道施設促進、區劃整理斷行下水道溝築

等々急速を要する大事業山積してゐるが、小野町長は商港としての設備を行ふ一方漁港としても機能を發揮せしむべく町の中央を貫流する小名川を利用し運河を開鑿小漁船を溯行せしむる計劃を進め大体調査を終へたので築港護岸着工の關係を考慮し明二十一日開かれる町會へ提出承認を求め直ちに實行運動に入ることになつた。

同運河は工費十萬圓延長八百米（内埋立地二百米）河幅三十五米で海水を利して漁船を溯行せしめ町の中央部へ漁類其の他の貨物を容易に運搬するもので、大小名濱町への躍進途上にある第一階梯として實現可能と見られてゐる。

濱三郡木炭 解散に決定

濱三郡木炭同業組合では十七、八兩日双葉郡久之濱町龜屋旅館で評議員會を開き七年度決算は原案承認に決したが、組合の存廢問題で協議したところ組合創立者である副組合長草野米彌氏等は木炭檢査が縣營となり同業組合は骨抜きだから存續負擔を重くするばかりであると強硬に解散説を主張した結果解散派が勝を占め二千三百名の全組合員に解散同意書を送り同意書を取纒めることの申し合せをなし十八日午後三時閉會した、八月上旬中に同意書を取まとめる筈で解散は略確定的となつた。

▲四倉校上棟式

四倉小學校の增築校舍上棟式は二十一日午後一時より擧行するが、校舍落成は八月末日である。

勝太郎 平に出演か

ビクター會社專屬人氣作曲家佐々木俊一氏は郷里浪江町に歸省するを機とし八月一日浪江座に於て演奏會を催ほす事になつたが、平町青年團では基金募集のため八月二日か三日に聚樂館で同一行を招き演奏會を開催すべく交渉中である。同一行には流行小唄の東京葭町川辰中方抱藝妓勝太郎を始め藤山一郎、四家文子、德山璉等を交えてゐる。

國庫の名で 貯金通帳
振つた前科者

石城郡四倉町生れ當時住所不定前科三犯小島政市（四〇）は十五日相馬郡原町を徘徊中署員に檢束浮浪者として送局されたが、小島は賭博で言渡されてゐた罰金六十圓を納めずに逃走中のものであつたことが判明し相馬區裁判所檢事局で散々油を絞られ貯金中の通帳から半額だけを拂出して十七日分納したが、この通帳三通の内一通は小島國庫名義であり、國庫の名を附したのはどうしてだと聞かれ

どうせ賭博で納める六十圓は國庫の收入になるんだから國庫とつけたもので、暦行商中に儲けた金を罰金に充てるため貯金してゐたんだ

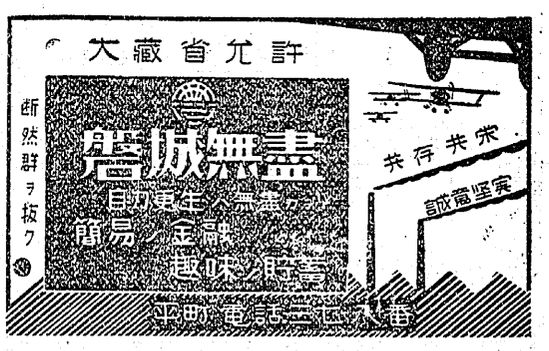
と語つて區裁判所員を啞然とさせた。

吉例大賣出し

七月二十二日は……土用丑の日
牛肉の御用命は他店の追隨を許さぬ三二三屋へ
電話三二三番
平田町町大通り

外務社員採用
初任固定給 月三十圓
廿五才以上　男、女、を問はず
履歴書携帶左記へ　面會毎日午后
平町田町一七
レストランサロン方
仁壽生命平駐在　吉田仁三郎
電話三五二番

脫衣場開設
毎度御引立を戴いた蒲鉾製造の米好は例年の通り海水浴の賣店を八日より初めました。納涼の慰安に御出ましの際は是非御立寄を御待ちして居ります。
◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎
冷たいお美味しい飲物
並中食……三十五錢
折詰御辨當……三十錢
其他御用命に應じ迅速に致します。
八年七月十一日
四倉海岸脫衣場
中央店
米好賣店
大河原米松


許允省藏大
盡無城磐
目の見ぬ人生の夏の
簡易ノ金融
趣味ノ貯蓄
断然群ヲ抜ク
宋共存共
実堅電誠
平町電話三二八番

胃腸 内科 専門
十二指腸虫病
梅毒 淋病婦人病 専門
膚皮病
松村胃性腸病科醫院
平町南町【電話一〇七番】

自動車助手至急入用
年齢十七歳以下の者
希望者は四倉仲町（竹の家）
緒方與平宅に御相談下さい
驛前より玉山を經て
小川郷行き
（三十分毎に發車）
草野自動車部
主任　緒方與平
四倉仲町
電話四倉一〇二番呼

新舞子初音賣店
＝迎客準備整ふ＝
地敷網　舟頭付き一日三圓にて御貸し致します
食事一人前三十五錢より
若し宴會等の場合は電話二三六番へ
御申込下さい
初音

諸橋外科醫院
醫學博士　諸橋鐵彌
平町新川町廿七（電話四六四）
診療科目
○内臟外科　○整形外科
○腦外科　○皮膚科
○婦人外科
○一般外科　○性病科
開業
入院室
手術室……完備

内科　小兒科
花柳病科
藤沼醫院
（入院應需）
平町紺屋町
電話平長五〇七

皇漢藥合成品
喘息五靈湯
頑目性慢性ニヨシ
五日分一圓
喘息、氣管喘息、神經喘息、痰咳、氣管支カタル等の慢性頑固性に卓効を有す。
他藥にて全治困難の人々に一度の御試用を勵む。
山野邊藥局

急告!!
永年御期待の小型花氷
いよいよ出來ました
御愛用の程をお願ひ申上ます
平製氷株式會社
電話平二二八番　三一六番
御注文ハ平製氷と魚清氷室へ
回御下命次第迅速に配達します
平製氷の小型花氷（一本五十錢）
高サ約壹尺參寸…六時間は樂に保ちます…（龜甲型）
◆御家庭の團欒に……
◆御來客御の接待に……
◆御集會の納涼に……
どなたも喜ぶ平製氷の小型花氷
◎使用法
お持ち合せの水盤樣の器に花氷を特製臺にのせてお入れ下さい
◎特製臺（何回も使用出來るブリキ製）壹個貳拾錢でお分けします

吉田眼科病院
平町紺屋町　電話六八番

今般お客樣の御勸めにより大正五年當時賣出した事のある「天ぷら」を始めました、何卒御試食を願ひます
主材料　車海老　銀穴魚子
其他御注文に應ず
金ぷら
平町田町
大貞
電話四百十三番